

大学生を対象とした SNS の利用状況 および学業成績との関連性 ～ mixi、Facebook、Twitter の接触状況調査から～

長 広美*・登丸あすか**

[キーワード] SNS 利用、学業成績、mixi、Facebook、Twitter

[要旨] 本稿は、大学生の SNS (social networking sites) 利用と学業成績との関連性について、文京学院大学外国語学部 1 年生を対象に実施した mixi、Facebook、Twitter の利用に関する質問紙調査に基づいて報告するものである。調査の結果から、学生間でこれらの SNS が広く普及しており、とりわけ Twitter の利用率が約 8 割と最も高いことが示された。学生の多くはこれらの SNS を通じて 70 から 100 を超える人たちと「つながり」をもち、学生生活がこうしたオンライン上でのコミュニケーションによっても展開されている実態が明らかにされた。この結果は、授業の在り方やゼミ運営など大学教育において SNS が幅広く活用できる可能性を示すものである。また、学業成績と SNS 利用との関連性について、SNS ユーザーの大学生は非ユーザーの大学生よりも成績が悪い傾向にあると確認されたものの、因果関係までは示されておらず、今後、より高度な統計手法を駆使した調査が必要であろう。

1. はじめに

インターネットの普及に伴って、電子メールやホームページ、ブログなどを用いた情報発信が容易となり、メディアを通じた双方向のコミュニケーションが可能になった。とりわけ 2000 年代に入ってから、mixi や Facebook、Twitter などオンライン上での社会的な「つながり」を構築する SNS (social networking sites) が若い世代を中心に急速に広まっている。これらの SNS は大学の友人やバイト仲間、家族間でのコミュニケーションのツールとして使われる一方、趣味など共通の関心事を手がかりに出会ったことのない人と「つながり」をもつための新たな出会いの場ともなっている。

日本では mixi が 2004 年 3 月に、続いて Twitter が 2008 年 4 月、Facebook が同年 5 月に開設された。『ソーシャルメディア白書 2012』によると各 SNS の利用率は、mixi が 10 代で男性 33.1 %、

* 外国語学部准教授／マス・コミュニケーション学

** 人間学部助教／マス・コミュニケーション学

女性48.1%、20代で男性49.5%、女性60.8%とあり、Facebookが10代で男性18.9%、女性25.4%、20代で男性25.5%、女性23.6%、さらにTwitterが10代で男性45.2%、10代女性59.2%、20代で男性49.5%、女性60.2%である。10代および20代という若い世代においてはTwitterの利用率が比較的高く、mixi、Facebookと続く。性別による差はみられるものの、若い世代はこれらのSNSを広く利用していることが確認される。

利用率をみても、日常のコミュニケーション手段としての位置を確立しつつあると考えられるが、これらSNSの利用に関する先行研究は散見される程度である。その研究内容はSNSを通じて行われるコミュニケーションに焦点をあてたものが多く、具体的にはSNSのコミュニケーションと対人関係についての研究(大沼他 2012、青山 2010)や、東日本大震災におけるSNSの役割に関する調査研究(執行 2011)などが挙げられる。例えば小寺(2009)は、mixiの利用と満足について大学生を対象に調査を行い、「既存の関係の強化」がmixi利用の基盤であると指摘する。これらの研究で述べられているようなSNSによる新たなコミュニケーション空間は、対人関係や災害時の利用のみならず、大学内での友人づくりや授業に関する情報発信など大学教育においても大いに活用できると考えられる。しかし、そうした大学教育との関連性に焦点をあてた研究は管見の限りほとんど行われていない。若い世代にSNSの利用が急速に拡大していることを考慮すると、大学教育におけるSNSの役割を問うことは緊急の課題と言えるだろう。そこで筆者らは、大学教育におけるSNSの在り方を考えるための第一歩としてSNSの利用状況を把握する必要があると考え、文京学院大学におけるSNS利用に関する実態調査を行った。本稿はその結果を報告するものである。

2. 調査方法

本調査実施に先立ち、質問紙の質問項目内容や質問量などの適切さを調べるために2012年9月14日に文京学院大学人間学部在籍中の4年生に対してパイロット・テストを実施した。

本調査はパイロット・テストを踏まえ、2012年9月21日に実施した。2012年度外国語学部在籍中の1年生全員に質問紙を配布、回収を行った。最終的な調査対象者は、2012年4月(入学時)と2012年8月実施の両方のTOEICテストを受験した外国語学部の1年生192名(男子43名、女子149名)とした。

質問紙の構成と回答方法は次の通り。①学業について(記述式)、②SNS環境及び登録状況について(2件法、一部記述式)、③SNSアクセス時に使用する媒体について(5件法)、④SNS利用時間帯について(5件法)、⑤SNS登録人数について(記述式)、⑥SNS接触時間及び頻度について(記述式)、⑦大学に関する書き込みについて(記述式)。

3. 結果及び考察

3.1 学業について

1週間あたりのアルバイト時間：1年生の77.5%がアルバイトをしていた。アルバイトをして

いる学生の1週間あたりの平均労働時間は17.6時間（標準偏差7.91、最頻値20時間）。週40時間以上労働をしている学生は2.7%だった。

自宅での1週間あたりの勉強時間：自宅での平均勉強時間は3.7時間（標準偏差4.44）。週に8時間以上自宅で勉強する学生は9.5%だった。全く勉強をしないと回答した学生は13.2%だった。

入学時TOEIC得点：入学時のTOEIC得点（2012年4月実施）の平均は318.3点（標準偏差85.17）だった。最大値は665点、最小値は140点だった。25パーセンタイルは265.0点、75パーセンタイルは363.8点だった。

1年前期終了時TOEIC得点：1年前期終了時TOEIC得点（2012年8月実施）の平均点は364.1（標準偏差95.09）。25パーセンタイルは296.3点、75パーセンタイルは410.0点だった。

TOEIC得点上昇：入学時のTOEICスコアと1年前期終了時のTOEICスコアを比較し得点上昇を調べた。平均45.8点（標準偏差67.29）上昇していた。25.5%の学生はスコアの変化が全くなかったか入学時よりもスコアが下がっていた。

3.2 SNS 環境及び登録状況について

自分専用のPC、タブレットPCについて：自分専用のコンピュータを持っている学生は40.8%だった。自分専用のタブレットPCを持っていると回答した学生は僅か12.0%であった。

表1 SNS 登録状況

	mixi	Facebook	Twitter
人数	127	103	154
%	66.1%	53.9%	80.2%
<i>N</i>	192	192	192

表1はSNS登録者数を表したものである。mixiには学生の66.1%が登録していた。Facebookには53.9%、Twitterには80.2%の学生が登録していた。メディアによって学生の登録状況に差がみられた。Twitterの登録者数は多かったが、Facebookの登録者数はTwitterの3分の2程度だった。

表2 SNS 登録時期と利用月数

	mixi		Facebook		Twitter	
	登録時期 (西暦)	利用月数 (ヵ月)	登録時期 (西暦)	利用月数 (ヵ月)	登録時期 (西暦)	利用月数 (ヵ月)
平均値	2009.7	30.5	2011.3	12.1	2011.1	14.2
標準偏差	1.43	16.80	1.08	12.30	1.15	13.24
最頻値	2009	24	2012	5	2012	5
中央値	2010	29.5	2012	6	2011	9
<i>N</i>	122	122	101	101	149	149

SNS登録時期と調査時までの利用月数を表したのが表2である。mixiへの登録時期の平均は西暦2009.7年だった。最頻値は2009年(29.5%)、次いで2010年(27.9%)だった。また、調査時までの利用月数の平均が30.5ヵ月、最頻値24ヵ月だった。本調査対象者が大学1年生であることから逆算すると高校1年～2年時にmixiに登録した学生が最も多かったと推定できる。

Facebookへの登録時期の平均は西暦2011.3年、最頻値2012年(59.4%)だった。調査時までの利用期間の平均が12.1ヵ月、最頻値5ヵ月だった。大学入学前後にFacebookに登録する学生が多いことがわかる。

Twitterの場合は、登録時期の平均は西暦2011.1年、最頻値は2012年だった。西暦2012年に登録した学生が最も多く47.0%、次いで2011年に登録した学生26.8%、2010年に登録した学生14.8%だった。また、調査時までの利用期間の平均は14.2ヵ月、最頻値は5ヵ月だった。これらのことからTwitterへの登録時期はFacebookよりやや早く高校3年前後に多くの学生が登録したことが判る。

また、mixi、Facebook、Twitter以外のSNSを利用している学生は47.9%だった。

3.3 SNS アクセス時に使用する媒体について

表3 SNS アクセス時に使用する媒体

		全く そうで ない	あまり そうで ない	どちら とも いえない	やや そうで ある	そうで ある	平均値	標準 偏差
mixi N=127	PC	65.4	14.2	3.9	12.6	3.9	1.8	1.23
	タブレット	89.8	2.4	1.6	3.1	3.1	1.3	0.90
	携帯電話	6.3	0.8	3.1	9.4	80.3	4.6	1.06
Facebook N=102	PC	45.1	17.6	4.9	21.6	10.8	2.4	1.49
	タブレット	89.2	4.9	1.0	1.0	3.9	1.3	0.86
	携帯電話	3.9	2.0	2.0	7.8	84.3	4.7	0.93
Twitter N=154	PC	58.4	18.8	1.9	11.7	9.1	1.9	1.38
	タブレット	89.0	4.5	1.3	1.3	3.9	1.3	0.88
	携帯電話	3.2	1.3	0.0	4.5	90.9	4.8	0.80

mixi、Facebook、Twitterへアクセスする際に使用する媒体についての回答をまとめたものが表3である。mixiアクセス時にPCを使用すると回答した学生は、「そうである」(3.9%)と「ややそうである」(12.6%)を合わせると16.5%だった。他方、mixiアクセス時にPCを使用しないと回答した学生は79.6%だった。mixiアクセス時には、多くの学生がPC以外の媒体を利用することが判明した。

mixiアクセス時にタブレットPCを使用すると回答した学生は6.2%であった。92.2%の学生はタブレットPCを使用しないと回答した。

mixi アクセス時に携帯電話を使用すると回答した学生は89.7%であった。携帯電話を使用しないと回答した学生はわずか7.1%だった。ほとんどの学生はmixi アクセス時に携帯電話を使用することが明らかになった。

Twitter アクセス時にに関して、mixi 同様の傾向がみられた。Twitter アクセス時にPCを使用すると回答した学生は20.8%だった。PCを使用しないと回答した学生は77.2%だった。

Twitter アクセス時にタブレットPCを使用すると回答した学生は5.2%だった。93.5%の学生はタブレットPCを使用しないと回答した。

Facebook アクセスに関して、mixi やFacebookとは異なる傾向がみられた。Facebook アクセス時にPCを使用すると回答した学生は32.4%だった。平均値は2.4であり、mixi（平均値1.8）やTwitter（平均値1.9）アクセス時よりも頻繁にPCを使用する傾向がみられた。

Facebook アクセス時のタブレットPC使用や携帯電話使用に関しては、mixi、Twitterとの差異はみられなかった。

3.4 SNS 利用時間帯について

表4 SNS 利用時間帯

		全く そうで ない	あまり そうで ない	どちら とも いえない	やや そうで ある	そうで ある	平均値	標準 偏差
mixi N=127	起床直後	56.7	23.6	6.3	8.7	4.7	1.8	1.17
	通学中	33.9	15.7	10.2	26.0	14.2	2.7	1.51
	授業中	72.4	14.2	9.4	3.9	0.0	1.5	0.82
	休み時間中	48.0	11.8	15.7	20.5	3.9	2.2	1.34
	就寝前	27.6	14.2	12.6	33.9	11.8	2.9	1.43
Facebook N=102	起床直後	56.9	29.4	7.8	3.9	2.0	1.7	0.93
	通学中	31.4	15.7	5.9	24.5	22.5	2.9	1.61
	授業中	75.5	12.7	5.9	4.9	1.0	1.4	0.89
	休み時間中	53.9	12.7	6.9	15.7	10.8	2.2	1.48
	就寝前	22.5	7.8	10.8	30.4	23.5	3.2	1.56
Twitter N=154	起床直後	20.8	14.9	11.0	24.0	29.2	3.3	1.53
	通学中*	8.5	4.6	5.2	26.8	54.9	4.2	1.24
	授業中	45.5	21.4	13.6	13.0	6.5	2.1	1.30
	休み時間中	13.6	5.2	9.1	39.6	32.5	3.7	1.34
	就寝前	9.1	2.6	1.3	28.6	58.4	4.3	1.21

* N=153

SNS利用時間帯についてまとめたものが表4である。

起床直後の利用状況について。「起床直後に使用するかどうか」という問いについて、多くの学生は起床直後にmixiをしていないことが明らかになった（平均値1.8、最頻値1）。Facebook（平均値1.7、最頻値1）もmixiと似た傾向がみられた。Twitter（平均値3.3、最頻値5）に

については、mixiやFacebookとは異なる傾向がみられた。mixiやFacebookよりも多くの学生が起床直後にTwitterをする傾向がみられた。

「通学中に使用する」という問いについて、mixi (平均値2.7、中央値3) は傾向が極端に2極化していた。通学時にmixiをすると回答した学生は40.2%だった。他方、通学時にmixiをしないと回答した学生は49.6%だった

Facebookの通学時の利用に関して、mixi同様に、極端に2極化していることが明らかになった (平均値2.9、中央値3)。通学時にFacebookをすると回答した学生は47.1%だった。通学時にFacebookをしないと回答した学生もほぼ同数の47.0%だった。

通学時のTwitter利用について (平均値は4.2、最頻値5)、81.7%の学生が通学時にTwitterを利用していた。mixiやFacebookとは明らかに利用傾向が異なっていることが判明した。

授業中にSNSを利用するかという問いに対し、86.6%の学生が授業中にはmixiをしないと回答をした (平均値1.5、中央値1)。他方で、3.9%の学生は授業中にmixiをすると回答した。

Facebookの場合もmixi同様の傾向がみられた (平均値1.4、中央値1)。授業中にFacebookをしないと回答した学生は88.2%だったが、5.9%の学生は授業中にFacebookをすると回答した。

Twitterの場合、mixiやFacebookよりも頻繁に授業中に学生がTwitterをしていることが判明した (平均値2.1、中央値2)。授業中にTwitterをすると回答した学生は19.5%であった。およそ5人に1人の割合で授業中にTwitterをしていることになる。

通学時や授業中にTwitterを利用している学生が多く、mixiやFacebookとは異なる傾向がみられたことについて、TwitterにはmixiやFacebookにはない学生にとっての魅力があると思われる。操作のし易さであったり、返信をせずに閲覧するだけで十分楽しむことができるなどTwitter独自の効用があると考えられる。

休み時間中にSNSを利用するかという問いに対し、休み時間中にmixiをしていると回答した学生は24.4%だった (平均値2.2、中央値2)。学生の約4分の1が休み時間中にmixiをしていた。

Facebookに関してもmixi同様の傾向がみられた (平均値2.2、中央値1)。休み時間中にFacebookをしていると回答した学生は26.5%だった。

Twitterの休み時間利用については、mixiやFacebookとは多少異なる結果であった (平均値3.7、最頻値4、中央値4)。72.1%の学生が休み時間中にTwitterをすると回答した。学生の約4分の3が休み時間中にTwitterをしていたことになる。mixiやFacebookの利用のされ方と比較すると、かなり多くの学生が休み時間にTwitterをすることが判る。

休み時間中に多くの学生がSNSをしている傾向について、友達と直接的な会話を楽しむというよりは一人でネット上の友人と会話を楽しむという休み時間の過ごし方をしている様子が浮き彫りになった。本研究が対象とした学生が1年生であり、まだ友人関係が構築されていないことを考慮したとしてもやや高めである。

就寝前にSNSを利用するかという問いに対し、mixi (平均値2.9、最頻値4、中央値3)、Facebook (平均値3.1、最頻値4、中央値4) とともに似たような回答であった。Twitterの場合 (平均値4.3、

最頻値5、中央値5)、mixiやFacebookとは異なる傾向がみられた。より多くの学生が就寝前にTwitterをしていることが判明した。

3.5 SNS 登録人数とその内訳について

表5 mixi 登録人数とその内訳

	<i>N</i>	平均値	標準偏差	最頻値	中央値
コミュニティ登録総数	124	18.4	48.61	0	3
マイミクシ登録数人数	122	130.0	79.60	200	120
（内、同じ大学の友人数）	120	23.5	21.22	20	20
（内、家族の人数）	125	0.1	0.32	0	0
（内、mixi で知り合った人数）	124	8.2	16.59	0	0.5
（内、mixi 登録以前からの知人数）	121	67.6	82.19	0	20

mixiに登録していると回答した学生127名を対象に、mixi登録人数とその内訳をまとめたものが表5である。

平均コミュニティ登録件数は18.4件であった。コミュニティ登録件数が10件未満の学生は71.8%であった。他方、登録件数が100件以上の学生は5.6%だった。ほとんどの学生は限られたコミュニティに参加している様子が明らかになった。

マイミクシ登録人数中mixiで知り合った人数の平均は8.2人であった。mixiで知り合った人数が10人未満と回答した学生は73.4%であり、mixiで知り合った人数は0人と回答した学生は50.0%だった。他方、mixiで知り合った人数が50人以上と回答した学生は5.6%。100人以上と回答した学生もみられた。ほとんどの学生はmixi登録以前からの知人とコミュニケーションをしていることが判明した。

家族をマイミクシに登録している平均登録人数は0.1人であった。1名以上の家族をマイミクシに登録していると回答した学生も11.2%おり、家族との新たなコミュニケーション手段としてmixiが利用されているという実態が浮かび上がった。

表6 Facebook 友人登録人数とその内訳

	<i>N</i>	平均値	標準偏差	最頻値	中央値
Facebook 友人登録総数	95	70.7	63.23	50	50
（内、同じ大学の友人数）	95	14.1	17.64	10	10
（内、家族の人数）	100	0.4	1.49	0	0
（内、Facebook で知り合った人数）	100	5.4	24.05	0	0
（内、FB 登録以前からの知人数）	96	38.0	51.54	0	19.5

Facebookに登録していると回答した学生103名を対象にFacebook友人登録人数とその内訳をまとめたものが表6である。

平均友人登録人数は70.7人であった。学生の4分の1は友人登録人数が25人以下であった。登録人数が100人以上の学生もほぼ同数の25.3%いた。

Facebook友人登録人数中、Facebook登録以前からの知人数は平均38.0人であった。

Facebookを通して知り合った人数の平均は5.4人であった。74.0%の学生は、Facebookを通して知り合った人数は0人であると回答した。他方、Facebookを通して知り合った人の数が100人以上と回答した学生は2.0%であった。多くの学生はFacebookを通して知り合った人とは繋がりをもっていないということが明らかになった。

Facebookに登録している平均家族数は0.4人だった。1人以上の家族を登録している学生の割合は16.0%いた。家族間のコミュニケーション手段としてFacebookが利用されている実態が明らかになった。

表7 Twitter登録人数とその内訳

	N	平均値	標準偏差	最頻値	中央値
フォローされている人数	152	117.3	99.07	100	100
フォローしている人数	152	126.2	102.29	160	111.5
(内、同じ大学の友人数)	148	25.8	22.16	10	20
(内、家族の人数)	152	0.1	0.40	0	0
(内、Twitterで知り合った人数)	150	26.5	71.55	0	0
(内、TW登録以前からの知人数)	148	47.3	56.45	0	21

Twitterに登録していると回答した学生154名を対象にTwitter登録人数とその内訳をまとめたものが表7である。

フォローされている人数の平均は117.3人。フォローしている人数の平均は126.2人。フォローされている人数とフォローしている人数がほぼ同数であった。フォローされている人物とフォローしている人物がほぼ同一である可能性があり、学生特有のTwitterの利用の仕方であると思われる。

フォローしている人数中、家族の人数は平均0.1人だった。89.5%の学生は家族をフォロー対象とはしていなかった。他方、9.2%の学生は家族1名をフォローしていると回答した。2名以上の家族をフォローしていると回答した学生は1.4%いた。約10%の学生が家族とのコミュニケーション手段としてTwitterを利用していた。

Twitterを通して知り合った人数の平均は26.5人であった。Twitterを通して知り合った人の数を0人と回答した学生は57.3%だった。他方で、Twitterを通して知り合った人数が100人以上と回答した学生は12.0%いた。

mixi、Facebook、Twitterを横断的に比較すると、登録人数については、FacebookはmixiやTwitterよりも少なかった。mixiとTwitterの登録人数はほぼ同数であることが判った。

家族間でのSNS登録状況を比較すると、mixi、Facebook、Twitterともに家族間のコミュニケーション手段として利用されていた。家族間で最も利用されていたSNSはFacebook（約15％）であり、次いでmixiとTwitterがほぼ同数（約10％）であった。

3.6 SNS 接触時間及び頻度について

表 8 mixi 接触時間及び頻度

	N	1 週間あたり	
		平均値	標準偏差
mixi 接触時間	124	1.6	2.08
自分のブログを更新する頻度	124	1.4	4.00
他人のブログをチェックする頻度	123	7.8	12.37
他人のブログにコメントする頻度	124	2.9	7.83
つぶやく頻度	124	2.2	6.39
ゲームをする頻度	126	1.5	12.84

1 週間あたり 1.6 時間、学生は mixi をして過ごしているという実態が明らかになった（表 8）。mixi の利用の仕方は、「他人のブログをチェックする」頻度をもっとも多かった。1 週間あたり平均 7.8 回、1 日あたりに換算すると約 1 回、他人のブログをチェックしていた。次いで、「他人のブログにコメントする」頻度（平均値 2.9 回）、「つぶやく」頻度（平均値 2.2 回）の順であった。「ゲームをする」頻度は（平均値 1.5 回、標準偏差 12.84）全体的には少なかったがヘビーユーザーがいることが明らかになった。1 週間あたり 140 回ゲームをすると回答した学生もいた（最大値）。

表 9 Facebook 接触時間及び頻度

	N	1 週間あたり	
		平均値	標準偏差
Facebook 接触時間	99	2.3	3.56
友達を検索する頻度	100	1.3	3.46
近況やコメントを投稿する頻度	100	2.2	5.62
他人の投稿に「いいね」する頻度	100	9.4	22.33
チャットする頻度	100	3.5	22.12

Facebook への接触時間は 1 週間あたり 2.3 時間であった（表 9）。「他人の投稿に『いいね』す

る頻度」がもっとも多く、1週間あたり9.4回であった。次いで、「チャットする」(平均値3.5回)、「近況やコメントを投稿する」(平均値2.2回)、「友達を検索する」(平均値1.3回)の順だった。

「他人の投稿に『いいね』する頻度」(標準偏差22.33)と「チャットする頻度」(標準偏差22.12)は、学生間で相当なバラつきがみられた。「他人の投稿に『いいね』する頻度」が1週間あたり140回と回答した学生もみられた(最大値)。「チャットする頻度」が1週間あたり210回と回答した学生もみられた(最大値)。

学生によるFacebookの利用のされ方として、近況やコメントなどの文章を書く作業をあまり伴わない使い方をしているように推察できる。単純に「いいね」をクリックするだけで、自分の存在を相手に知らせ、Facebook的意思疎通ができる所に学生はFacebookの魅力を感じているのかもしれない。

表 10 Twitter 接触時間及び頻度

	N	1週間あたり	
		平均値	標準偏差
Twitter 接触時間	149	9.3	11.97
ツイートする頻度	151	41.3	103.06
他人のアカウントをチェックする頻度	150	70.8	131.14
他人のアカウントにコメントする頻度	151	31.5	68.40
コメントを共有する頻度	152	22.8	42.19

学生は1週間あたり平均9.3時間 Twitterをして過ごしていると回答した(表10)。約8割(79.3%)の学生は1週間あたり14時間以下の接触であった(最頻値2時間)。他方で、1週間あたりのTwitter接触時間が21時間以上(1日あたり3時間以上)と回答した学生は12.7%、1週間あたり28時間以上(1日あたり4時間以上)と回答した学生は8%、1週間あたり35時間以上(1日あたり5時間以上)と回答した学生は6%であった。1週間あたり70時間(最大値) Twitterをしていると回答した学生もいた。

Twitterの利用の仕方は、「他人のアカウントをチェックする」がもっとも多かった(平均値70.4回)。次いで、「ツイートする」(平均値41.3回)、「他人のアカウントにコメントする」(平均値31.5回)と続いている。

学生によるTwitterの魅力を考察すると、Twitterではツイートできる文字数に限りがあるためmixiにみられるような近況やコメントなどを長々書く必要はない。Twitterは短文でツイートすることで、自分の存在を他人に知らせることができ手軽さがある。更に、他人のアカウントを気兼ねなく閲覧することができるというメリットがある。これらが学生にとって魅力的と映っているのかもしれない。

3.7 SNS での文京学院大学に関する書き込みについて

表 11 mixi での本学に関する書き込みについて

N=127	全く そうで ない	あまり そうで ない	どちら ともい えない	やや そうで ある	そうで ある	平均値	標準 偏差
本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみ*	55.6	13.5	21.4	6.3	3.2	1.9	1.14
本学の授業について投稿したことがある	70.1	10.2	11.0	6.3	2.4	1.6	1.06
本学の教職員について投稿したことがある	80.3	7.1	11.0	1.6	0.0	1.3	0.74
本学の行事について投稿したことがある	78.0	4.7	10.2	3.1	3.9	1.5	1.06
本学の学生生活について投稿したことがある	59.1	8.7	11.0	9.4	11.8	2.1	1.47

*N=126

mixi に登録している学生のうち「本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみである」という問いに対し肯定的な回答をした学生は9.5%であった（表11）。他方で、否定的な回答をした学生は69.1%であった。

「本学の学生生活について投稿したことがある」という問いに対し肯定的な回答をした学生は21.2%だった。5人に1人の割合で本学学生生活について投稿したことがあると回答した。他方、約70%の学生は否定的な回答であった。

表 12 Facebook での本学に関する書き込みについて

N=103	全く そうで ない	あまり そうで ない	どちら ともい えない	やや そうで ある	そうで ある	平均値	標準 偏差
本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみ	51.5	11.7	13.6	17.5	5.8	2.2	1.37
本学の授業について投稿したことがある	85.4	5.8	3.9	4.9	0.0	1.3	0.76
本学の教職員について投稿したことがある	91.3	4.9	2.9	1.0	0.0	1.1	0.49
本学の行事について投稿したことがある	80.6	4.9	4.9	4.9	4.9	1.5	1.11
本学の学生生活について投稿したことがある	71.8	6.8	8.7	5.8	6.8	1.7	1.25

Facebook に登録している学生のうち「本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみである」という問いに肯定的な回答をした学生は23.3%であった（表12）。mixi 登録者よりも Facebook 登録者の方が、約2倍「本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみである」と回答した。

「本学の学生生活について投稿したことがある」という問いに対し肯定的な回答をした学生は12.6%であり、mixi の約半数だった。

表 13 Twitter での本学に関する書き込みについて

N=154	全く そうで ない	あまり そうで ない	どちら ともい えない	やや そうで ある	そうで ある	平均値	標準 偏差
本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみ	36.4	22.7	18.8	15.6	6.5	2.3	1.29
本学の授業について投稿したことがある	51.3	11.0	11.0	18.2	8.4	2.2	1.44
本学の教職員について投稿したことがある	68.8	11.0	11.7	5.2	3.2	1.6	1.08
本学の行事について投稿したことがある	61.7	7.8	7.8	16.2	6.5	2.0	1.39
本学の学生生活について投稿したことがある	38.3	4.5	9.7	28.6	18.8	2.9	1.62

Twitterに登録している学生のうち「本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみである」という問いに対し肯定的な回答をした学生は22.1%であった（表13）。Facebookに関する回答とほぼ同程度であった。

「本学の授業に関する投稿をしたことがある」という問いに対し肯定的な回答をした学生は26.6%だった。mixiやFacebookと比較して、Twitterはより多くの学生が本学の授業についての投稿をしていると推察できる。

Twitterで「本学の教職員について投稿したことがある」という問いに対しても肯定的な回答をした学生の割合（8.4%）は、mixi（1.6%）やFacebook（1.0%）での回答を大きく上回った。

Twitterで「本学の行事について投稿をしたことがある」という問いに対し肯定的な回答をした学生は22.7%だった。

「本学の学生生活について投稿したことがある」という問いの平均値は2.9であり、他のどの質問項目よりも肯定的な回答が多かった。約半数近くの学生（47.4%）がTwitterで本学の学生生活について話題にしていることが判明した。

3.8 学業と SNS 利用との関連性について

これまでSNSの利用状況について調査結果を報告してきたが、Facebookユーザーの大学生はFacebookを利用していない学生よりも成績が悪いという米国での研究結果（Hamilton 2009、Kirschner and Karpinski 2010）があることから、本研究では米国での先行研究を参考に学業とSNS利用との関連性について調査した。

表14は、学業成績とSNS利用との相関関係を表したものである。「自宅での勉強時間」とSNS利用との関連性をみってみる。「Twitter登録の有無（ダミー変数）」と「自宅での勉強時間」との間に低い負の相関関係がみられた（ $r=-0.26$ ）。自宅での勉強時間が長い学生はTwitterに登録していない、あるいはTwitterに登録している学生は自宅での勉強時間が短いという調査結果が得られた。米国での先行研究結果（Hamilton 2009、Kirschner and Karpinski 2010）を支持する結果が得られた。

表 14 学業成績と SNS 利用との相関関係

	mixi 登録有無	mixi 利用時間	Facebook 登録有無	Facebook 利用時間	Twitter 登録有無	Twitter 利用時間
自宅での勉強時間	-0.11	0.01	-0.12	-0.05	-0.26**	0.01
TOEIC 得点（入学時）	-0.15*	0.09	0.04	0.05	-0.06	-0.02
TOEIC 得点（1年前期終了時）	-0.15*	0.04	0.06	0.13	-0.06	-0.04
TOEIC 得点上昇	-0.02	-0.05	0.03	0.12	-0.02	-0.04

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

一方、「Twitter利用時間」と「自宅での勉強時間」については関連性が見られなかった。これらのことから、自宅での勉強時間という点では、Twitterを利用している学生間では然程の差はなく、より大きな差異はTwitterに登録している学生とTwitterに登録していない学生との差であると推察される。

「入学時のTOEIC得点」とSNS利用との関連性をみても。「mixi登録の有無（ダミー変数）」と「入学時のTOEIC得点」との間に低い負の相関関係がみられた（ $r = -0.15$ ）。mixiに登録している学生は入学時のTOEIC得点が低い、あるいは入学時のTOEIC得点が高い学生はmixiに登録していなかった。これらの結果は、米国での先行研究結果（Hamilton 2009、Kirschner and Karpinski 2010）を支持するものであった。

「入学時のTOEIC得点」は他の変数とは関連性が見られなかった。これらのことから、前述の「自宅での勉強時間」同様、mixiを利用している学生間の学力の差は小さいと考えられる。より大きな差はmixiに登録している学生としていない学生間であると推察される。

4. まとめ

本調査の結果から、文京学院大学外国語学部1年生の多くがSNSを利用している状況が確認できた。既述のとおり、外国語学部1年生のSNSへの登録状況はmixiが66.1%、Facebookが53.9%、Twitterが80.2%であり、いずれのSNSにも半数以上の学生が参加している。Twitterに関しては約8割の学生が登録しており、最も普及しているSNSと言えるだろう。Twitterの利用時間帯をみると、起床直後や通学中、授業中、休み時間、就寝前と、いずれの時間帯においても利用頻度が他のSNSと比較して高い。短文で「つぶやく」または返信せずに閲覧だけでも十分に楽しめるというTwitterの特性が、利用頻度や利用率を促進していると推察される。

一方、利用者がサイトを通じて登録あるいはフォローしている人数は、mixiのマイミクシ登録人数が平均で130.0人、Facebookの友人登録数が平均で70.8人、Twitterのフォローされている人数が平均で117.3人である。学生の多くが、これらのSNSを通じて70人から100人を超える人たちとオンライン上のコミュニケーション空間を創造している。

ただし、利用状況に関しては利用するSNSによって違いがみられる。それぞれのSNSの主

要な利用方法をみると、mixiに関しては他人の日記にコメントすることによって、またFacebookでは「いいね」をクリックすることで、そしてTwitterは他人のアカウントをチェックしツイートすることによって、一方的ではない双方向のコミュニケーションが形成されていることがわかった。

大学への書き込みに関しては、「本学に関する他人の書き込みを読むのが楽しみ」と答えた学生はmixiで9.5%、Facebookで23.3%、Twitterで22.1%であり、FacebookとTwitterの割合がmixiの2倍以上と高い。またTwitterは、「本学の授業や学生生活などに関して投稿した」と回答した学生の割合も他のサイトと比較して高い。学生は、より頻繁に利用するTwitterを通して学生生活全般に関する情報をやり取りしていることが確認できる。

以上の結果から、学生のSNS利用率は先行研究で示されていたよりも高く、SNSが文京学院大学において幅広く普及していることがわかる。学生にとって大学生活とは、大学のキャンパスやクラスといった時間や空間の制限を超えたものであり、オンライン上でのコミュニケーションを通じて展開されていると言えるだろう。したがってSNSの利用は、今後の大学生活や授業の在り方、ゼミの運営方法などにおいて大いに活用できる可能性をもつものと考えられる。

最後に学業とSNS利用との関連性について述べる。本調査結果は、前述した米国での研究結果を支持するものであり、SNSユーザーの大学生は非ユーザーの大学生よりも成績が悪い傾向にあった。ただし、本研究では相関関係をみただけであり必ずしも2変数間に因果関係があるということまではいえていない。また、実社会では様々な要因が複雑に絡み合っているため、それらの要因も考慮に入れながらより高度な統計手法を駆使して調査する必要がある。しかしながら、本研究領域に関する日本での先行研究が乏しい中、その第一歩を踏み出せたことは本研究がもつ価値として評価に値すると思われる。

参考文献

- 青山郁子 (2010) 「ネットいじめとは？欧米の先行研究からみるネットいじめの特徴、事例、関連統計」『教育研究』52:73-80
- 大沼美由紀・木村敦・佐々木寛紀 (2012) 「SNSは友人関係を悪化させるか—若者を対象としたSNS利用における既存友人との対人トラブル実態調査」『電子情報通信学会技術研究報告』112(45):155-160
- Kirschner, Paul and Karpinski, Aryn C., 2010, "Facebook and Academic Performance," *Computers in Human Behavior*, 26 (6) : 1237-1245.
- 小寺敦之 (2009) 「若者のコミュニケーション空間の展開—SNS『mixi』の利用と満足、および携帯電話利用との関連性—」『情報通信学会誌』27 (2) : 55-66
- Hamilton, Anita, 2009, "What Facebook Users Share: Lower Grades," *Time Business*, April 14 (Retrieved August 2, 2012, <http://www.time.com/time/business/article/0,8599,1891111,00.html>) .
- 執行文子 (2011) 「東日本大震災・ネットユーザーはソーシャルメディアをどのように利用したのか」『放送研究と調査』2011年8月号: 2-13

大学生を対象とした SNS の利用状況および学業成績との関連性（長 広美・登丸あすか）

トライバルメディアハウス／クロス・マーケティング編（2012）『ソーシャルメディア白書 2012』翔泳社

（2012.10.10 受稿，2012.11.21 受理）